令和８年度　10月号No.3
「一人ひとりが輝く 楽しい学校」

東泉丘小学校だより

令和８年（2026年）10月15日発行

令和8年度 すくすくウォッチ（府）、全国学力学習状況調査（国）の結果概要

４月に実施されました『すくすくウォッチ』（府）、『全国学力学習状況調査』（国）の結果について、概要を報告します。５年生、６年生の個人の結果は、各担任より返却されます。

５年生

本校の平均正答率（%）と	豊中市平均との差	大阪府平均との差
国語	+2.9 ポイント	+6.2 ポイント
算数	-1.6 ポイント	+2.2 ポイント
理科	+2.2 ポイント	+4.8 ポイント
わくわく問題	+1.9 ポイント	+5.1 ポイント

【国語】

基礎的・基本的な言葉の知識や文の構造を捉える力が身に付いていることが分かりました。また、中央値も 14 問（17 問中）と府平均 13 問を上回っており、多くの児童が安定した力を発揮していました。

今回の結果から、本校 5 年生は、国語の基礎的・基本的な力が全体としてしっかり身に付いており、平均正答率は大阪府平均を上回る結果となりました。特に、文章の内容を正確に読み取る力や、指示語・接続語に着目して文と文とのつながりを理解する力、手紙などの場面に応じて適切な表現を選ぶ力に強みが見られました。また、漢字や語句の知識についても定着がうかがえ、児童が落ち着いて問題に取り組むことができています。

一方で、言葉の使い方を文法的に見直したり、文脈に応じて意味を正確に捉えたりする力には、さらに伸ばしていきたい部分も見られました。具体的には、誤った表現を適切な言葉に直す問題や、ローマ字表記、伝聞の内容や言葉の関係を整理して理解する問題で課題が見られました。これらは単なる知識の暗記だけではなく、言葉の意味や働きを意識しながら考える力につながる重要な力です。

今回の結果からは、子どもたちが日頃の学習の中で国語の力を着実に積み上げていることが分かるとともに、自分の考えをより正確に表現したり、言葉の意味や使い方を深く理解したりする力を育てていくことの大切さも明らかになりました。今後も、本の読み聞かせや読書活動、話し合い活動、文章を書く活動を大切にしながら、一人ひとりが言葉を豊かに使い、自分の思いや考えを自信をもって伝えられるよう指導を進めてまいります。

【算数】

時刻の計算や割合・倍の考え方など、日常生活と関連付けて数量を考える問題では良好な結果が見られました。約束の時間から出発時刻を求める問題では正答率 76.0%、米やたまごの価格変化から何倍になったかを考える問題では正答率 61.6%となっており、既習事項を生活場面の中で活用する力が身に付いていることがうかがえます。

一方で、グラフや図形から情報を読み取り、その根拠を言葉で説明する問題には課題が見られました。例えば、気温の変化とアイスクリーム・かき氷の人気の関係をグラフから読み取って説明する問題の正答率は 33.6%、図形の性質を根拠に四角形を判断して理由を説明する問題の正答率は 9.6%でした。答えを導くだけでなく、「なぜそう考えたのか」を筋道立てて説明する力が十分ではない様子が見られます。

このことから、本校の 5 年生は４月時点で、計算や数量関係の理解など基礎的な力が着実に身に付いている一方で、資料や図形の特徴を読み取り、自分の考えを論理的に表現する力には今後さらに伸ばしていく余地があると考えられます。学校では、これまでの成果を大切にしながら、グラフや図形、表などを根拠として考えを説明する活動を積極的に取り入れ、「わかる」だけでなく「考

えを伝えられる」力の育成に取り組む必要があると認識しています。ご家庭でも、日常生活の中の数量やデータについて話題にしていただくことで、子どもたちの学びをさらに深められると思います。

【理科】

理科で学んだ知識を身近な自然現象や生活の場面と関連付けて考える力が身に付いていることがうかがえます。特に、「建物の影の向きから太陽の位置を考える問題」の正答率は 68.3%（府 56.9%）、「乾電池を増やしたときのプロペラの回転を考える問題」は 58.7%（府 46.9%）となり、いずれも府平均を大きく上回りました。また、「影の位置から太陽の方位を答える問題」は 92.9%、「太陽の動きを方位で答える問題」は 79.4%と高い正答率で、観察した事実をもとに考察する力が見られました。

一方で、「銅の性質を『電気』『じしゃく』という言葉を用いて説明する問題」の正答率は 19.8%、「磁石がしりぞけ合う組み合わせを選ぶ問題」は 34.9%、「方位磁針の使い方を問う問題」は 45.2%でした。学習した内容を知識として理解するだけでなく、根拠をもとに説明したり、学習した内容を活用して考えたりすることに課題が見られました。今後は、観察や実験の結果をもとに考察し、科学的な言葉を使って説明する学習を充実させることで、思考力・表現力の向上につなげることが必要です。

わくわく問題より（5、6年共通）

5・6 年生の結果を分析すると、両学年に共通した特徴が見られました。

平均正答率は、5 年生が 63.2%（府平均 58.1%）、6 年生が 72.2%（府平均 68.5%）と、いずれも大阪府平均を上回りました。

問題では、「接着剤の特徴を資料から読み取り、どのような場面で活用できるかを考える活動」や「大阪観光を題材に複数の資料を使って観光プランを提案する活動」、「図書委員会のキャッチコピーや本の紹介パネルを考える活動」が出題されました。どの問題も、資料を活用して考え、自分の考えを表現する力が求められる内容でした。

本校の子どもたちは、こうした課題において高い力を発揮しました。特に「自分の考えをまとめて伝える力」は、5 年生が 72.8%（府平均 65.4%）、6 年生が 80.9%（府平均 76.6%）でした。また、「興味や関心のあることを工夫して相手に伝える力」は、5年生が84.1%（府平均74.3%）、6 年生が 89.6%（府平均 82.5%）となり、いずれも府平均を大きく上回りました。

具体的には、接着剤の特徴を踏まえて身近な活用場面を提案する問題や、大阪観光プランの魅力を紹介文で表現する問題、図書委員会活動で本の魅力が伝わるキャッチコピーやパネルを作成する問題で高い成果が見られました。相手を意識しながら、自分の考えや理由を分かりやすく伝える力が育っていることがうかがえます。

一方で、両学年に共通して、複数の情報や条件を整理しながら論理的に判断する問題には課題が見られました。例えば、大阪観光案内アプリに必要な機能や画面移動の仕組みを考える問題では、多くの児童が途中までは正しく考えられているものの、複数の条件を満たして最終的な答えを導くことに難しさが見られました。

今回の結果から、本校の子どもたちは、資料を読み取り活用する力や、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を着実に身に付けていることが分かりました。今後は、こうした強みをさらに伸ばすとともに、複数の情報を整理し、根拠をもとに筋道立てて考える力の育成にも取り組んでまいります。

児童アンケートより

良好であった項目を紹介します。

① タブレットを活用した意見交流　本校 84.1%（府 53.3%）
② 家庭に決まった勉強場所がある　本校 80.2%（府 68.1%）
③ 授業中に間違っても笑われない　本校 72.2%（府 63.0%）
④ 自分の考えをノートに書いている　本校 88.9%（府 81.8%）
⑤ 困ったときに相談できる先生がいる　本校 86.5%（府 80.7%）
⑥ 家の人とその日の出来事を話している　本校 88.1%（府 82.8%）

課題とみられる項目を紹介します。
① 自分の考えを積極的に発言している　本校 50.8%（府 60.7%）
② 自分の得意なことや苦手なことを分かっている　本校 82.5%（府 90.0%）
③ 授業で学んだことを生活に生かしている　本校 70.6%（府 77.4%）
④ 黒板の内容をノートに写している　本校 89.7%（府 94.9%）
⑤ 話し合いの中で考えを深めたり広げたりしている　本校 66.7%（府 71.2%）

安心して学べる学級づくりのもと、先生との信頼関係や家庭での温かなコミュニケーションに支えられながら成長していることがうかがえます。特に、ICT を活用して友だちと考えを交流する力は、大阪府平均を大きく上回る結果となりました。

一方で、自分の考えを発表する力や、自分自身を見つめる力、学びを生活に生かす力については、今後さらに伸ばしていきたいです。

6年生

本校の平均正答率（%）と	豊中市平均との差	大阪府（公立）平均との差	全国（公立）平均との差
国語（国調査）	+1 ポイント	+3 ポイント	+1.1 ポイント
算数（国調査）	+4 ポイント	+9 ポイント	+8.6 ポイント
理科	+3.7 ポイント	+6.6 ポイント	
わくわく問題	+1.2 ポイント	+3.7 ポイント	

【国語】
「話すこと・聞くこと」の領域では 69.1%（府 63.9%）、「情報の扱い方に関する事項」では 59.0%（府 51.4%）と高い成果が見られました。動画や資料を活用しながら、相手に分かりやすく伝える工夫を読み取る力や、情報同士の関係を整理して理解する力が身に付いていることがうかがえます。例えば、草花遊びを紹介する動画の工夫や効果を考える問題では、府平均を 10 ポイント以上上回る設問もあり、情報を的確に捉える力の高さが見られました。

一方で、「書くこと」の領域は 42.6%で、大阪府平均（43.8%）をやや下回りました。特に、複数の資料から必要な情報を引用し、自分の考えをまとめて表現する問題では 27.7%と低く、根拠をもとに筋道立てて文章を書く力に課題が見られました。また、文章の内容と自分の経験を結び付けて考えをまとめる問題や、漢字を正しく使う問題においても改善の余地が見られました。

今回の結果から、6 年生は文章や資料から必要な情報を読み取り、内容を理解する力や、人に伝える工夫に着目して考える力に強みがあることが分かりました。一方で、読み取った情報を根拠として活用し、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力については、さらに伸ばしていきたいです。

【算数】
計算や図形、測定などの基礎的な知識や技能がしっかりと身に付いていることが分かりました。特に、「数と計算」は 69.9%、「図形」は 67.0%、「測定」は 88.3%と、大阪府平均を大きく上回りました。

設問別では、体積の意味を理解する問題や概数を求める問題、分数の大小を理由とともに説明する問題などで高い正答率を示しました。例えば、「1 立方センチメートルの立方体 36 個でできた直方体の体積を求める問題」では府平均を 24.9 ポイント上回り、「異なる分母の分数の大小を判断し、その理由を説明する問題」でも府平均を 15.4 ポイント上回りました。これらの結果から、学習した内容を理解するだけでなく、根拠をもとに考えたり説明したりする力が育っていることがうかがえます。

一方で、表や資料から必要な情報を読み取り、複数の条件を関連付けて考える問題には課題も見られました。割合を表す図を選ぶ問題や、表から条件に合う人数を読み取る問題などでは正答率が低く、数量の関係を整理して判断する力については、今後さらに伸ばしていく必要があると考えています。

今回の調査を通して、6 年生は基礎・基本の定着が図られ、学んだことを活用して考える力も着実に育っていることが確認できました。その一方で、資料を読み取り、多面的に考察する力につい

てはさらなる向上が期待されます。今後も、一人ひとりが「わかった」「できた」を実感できる授業づくりを進めるとともに、自ら考え、説明し、学び合う活動を大切にしてまいります。

【理科】

全体として、理科で学んだ知識を活用して考える力が身に付いていることがうかがえる結果となりました。

特に良好であったのは、基礎的な知識を活用する問題です。例えば、熱気球が空に浮かぶ理由を問う問題では正答率が 100%（府平均 93.1%）、太陽光発電と太陽の動きを関連付けて考える問題でも 87.5%（府平均 82.0%）と高い結果でした。

また、天気に関する問題では、雲画像や降水量の資料を読み取り、天気の変化を判断する問題の正答率が 88.5%（府平均 81.2%）でした。さらに、ふりこの性質をもとに往復回数を考える問題でも 88.5%（府平均 79.7%）と高く、観察した事実や条件を整理して考える力が育っていることが分かります。

一方で、今後の課題も見られました。昆虫の体のつくりについて、「頭・胸・腹」の名称を答える問題は正答率が 51.0% でした。ただし準正答を含めると 65.6% となり、考え方は理解していても、科学的な用語を正確に表現する力に課題が見られました。

また、水が沸騰したときの状態変化について考える問題は 33.3%、砂糖や食塩の溶け方をもとに結晶が出てくる水溶液を選ぶ問題は 38.5% となりました。どちらも実験結果を根拠にして考察する力や、学習した内容を新しい場面で活用する力が求められる問題でした。

今回の結果から、本校の子どもたちは観察や資料の読み取りを通して考える力が着実に身に付いていることが分かりました。今後は、実験結果を根拠として説明したり、理科用語を正確に用いたりする学習の充実を図る必要があります。

わくわく問題より

（※わくわく問題については５年生と共通です。前ページをご参照ください。）

児童アンケートより

良好であった項目を紹介します。

① 先生は自分のよいところを認めてくれている 本校 97.9%（府 92.7%）
② 学級会では、自分たちで意見を出し合って物事を決めている 本校 94.8%（府 82.4%）
③ 日直や係の仕事を自分たちで考えて取り組んでいる 本校 93.8%（府 82.1%）
④ 家の人と一緒に遊んだり勉強したり家の仕事をしたりすることがある 本校 94.8%（府 85.7%）
⑤ 家の人とその日の出来事について話をしている 本校 88.7%（府 82.6%）
⑥ 学級会の話し合いでは、少数意見も大切にしている 本校 79.4%（府 70.7%）
⑦ 学級は協力的である 本校 85.6%（府 82.5%）
⑧ 困ったときに相談できる先生がいる 本校 89.7%（府 79.2%）
⑨ 将来の夢や目標を持っている 本校 89.7%（府 83.4%）
⑩ 自分にはよいところがあると思う 本校 93.8%（府 88.4%）

今後さらに伸ばしていきたい項目を紹介します。

① 授業でタブレット等を使って自分に合った問題やドリルに取り組む(ほぼ毎日） 本校 9.3%(府 24.3%)
② 黒板に書かれたことをノート等に写している 本校 90.7%（府 95.7%）
③ 友だちと協力するのは楽しい 本校 93.8%（府 95.9%）
④ イライラしたときに考え方を変えて落ち着こうとしている 本校 49.5%（府 51.0%）
⑤ 人と対立しても相手を理解しようと努力する 本校 73.2%（府 74.3%）
⑥ 授業後の振り返りをしている 本校 73.2%（府 75.6%）
⑦ 読書習慣（1 日 30 分以上読書） 本校 42.3%（府 32.6%）
⑧ 自分の考えを積極的に発言している 本校 60.8%（府 55.3%）
⑨ 自分で学習内容を考えて家庭学習をしている 本校 45.4%（府 43.2%）
⑩ 本やインターネット等で自ら調べている 本校 81.4%（府 80.0%）

先生や友だちとの信頼関係の中で学校生活を送り、自分たちで学級をつくり上げようとする意識

が高いことが分かりました。また、家庭とのつながりも強く、自己肯定感や将来への希望をもつ子どもたちが多いことは大きな強みです。
　一方で、学習の振り返りや ICT を活用した個別学習、自分の感情を調整する力などには、さらに伸ばしていきたい課題も見られました。今後も子どもたち一人ひとりの良さを大切にしながら、主体的に学び、互いに支え合って成長できる学校づくりを進めてまいります。
　学校では、子どもたちの良さや強みを大切にしながら、一人ひとりが自信をもって学び、自分の考えを表現できる子どもの育成に取り組んでまいります。

児童質問紙より
「すくすくウォッチ児童アンケート」でも確認された内容と重なるかもしれませんが、児童質問紙から特に見えてきた特徴をお伝えします。
　「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では肯定的回答が 96.8%（府 92.5%）、「困りごとや不安がある時に先生や学校の大人に相談できる」では 91.5%（府 76.0%）となり、多くの児童が安心して学校生活を送っていることがうかがえます。
　また、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」は 97.9%（府 92.1%）、「自分にはよいところがあると思う」は 91.4%（府 86.1%）となり、前向きな気持ちで生活している児童が多いことも特徴です。
　学習面では、「分からないことがあった時に自分で学び方を考え工夫できる」が 86.1%（府 80.1%）、「課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいた」が 83.0%（府 76.3%）となり、主体的に学ぶ姿勢が見られました。
　ICT 活用に関しても、「ICT で情報を整理できる」が 71.3%（府 67.2%）、「プレゼンテーション資料を作成できる」が 77.6%（府 72.3%）となっており、情報活用能力や表現力の育成が進んでいます。
　さらに、「人と違う意見を言っても否定されないと思う」は 83.0%（府 73.9%）、「友達との話合いを通して考えを深めることができる」は 90.4%（府 84.4%）でした。